

AYA 世代がんサバイバーの
心理社会的回復に有用な因子の探索

東京都立小児総合医療センター

西川 英里

・目的

本研究は、AYA 世代がんサバイバー、闘病を乗り越えて心理的な回復を遂げていく過程を、就労や復職に関連して聞き取り調査を行う。これにより、心理社会的な回復を達成するために必要な因子を探索的に解明する。

・方法

単施設質的探索的研究にて、AYA 世代がんサバイバーの①がん診断時および治療中、治療後の就労状況、②就労・復職までに感じた困難感、③就労・復職に有用であった支援、④自分にあつた働き方にたどりつくために有用なこと、について半構造化面接を行った。

目標症例数は先行研究を参考に 20 例と設定し、①がん（血液がんを含む）の診断が臨床的もしくは組織学的に確認されている、②登録時に 20 歳—29 歳の国立がん研究センター中央病院に通院中あるいは入院中の患者のうち、就労・復職している、③同意取得時においてがん治療が終了し、寛解、あるいはそれに準じる状態として経過観察となっている、を選択基準とした。

データ分析は質的内容分析の手法を用いて以下の手順で行った。

まず、半構造化面接の録音データからおこした逐語録を繰り返し読み、全体の文脈を把握した。

逐語録から研究目的に関連する意味のある記述（意味単位）を抽出し、数名の研究参加者とともに KJ 法に準じて、質問項目ごとに分類、カテゴリー化を行った。分析の信頼性・妥当性を高めるために、分析結果について、著者 1 名及び研究参加者数名にて確認を行った。

・結果

20 名に調査を行い、男性は 12 名だった。原病であるがん腫は、血液・リンパ系が 8 名、胚細胞腫瘍が 4 名、脳腫瘍が 3 名、骨軟部腫瘍が 3 名、その他が 2 名であった。調査時の年齢は 21 歳から 29 歳（中央値 24.5 歳）、現病罹患時の年齢が 8 歳から 28 歳（中央値 19 歳）であった。（表 1）

各質問に対する回答の解析結果は以下のようであった。

① 就労・復職上の困難

43 の回答が抽出され、5 個の主要カテゴリー、11 個のサブカテゴリーに分類された。最も多く言及されたのは「身体的困難」であった。

② 就労・復職上有用だった支援

58 の回答が抽出され、4 個の主要カテゴリー、11 個のサブカテゴリーに分類された。最も多く言及されたのは「身近な人の支え」だった。

③ 自分らしい働き方に至るために大切だったこと

34 の回答が抽出され、5 個の主要カテゴリー、7 個のサブカテゴリーに分類された。最も多く言及されたのは「心理的強さ・柔軟性」であった。

④ 自分らしい働き方に至るにはどのような支援があるといいか

35 の回答が抽出され、4 個の主要カテゴリー、6 個のサブカテゴリーに分類された。最も多く言及されたのは「経済・社会的制度」だった。

・考察

就労や復職への困難に対しては、身体症状が最も大きな因子となっており、仕事に何らかの困難を感じる身体症状がある中で、生活、経済、心理的に幅広くサポートしてくれる身近な人の支援が最も有用とされたものと考えられる。自分一人の努力で解消しえない経済や社会的な軋轢に対して支援となるはずの様々な制度が、有用な支援だったと述べられることは少

なかったのに対し、自分らしく働くためにどのような支援があってほしいかという問いに対しては、傷病休暇などの「制度」が最も多く挙げられており、通院や突然の体調不良に対して、職場や社会が何らかの仕組みを設けて行う支援の充実が今後の課題と思われた。

一方で自分らしく働くために大切なことは、周囲の人の支えなど外的な因子に混ざって、自身の心の強さや柔軟さに思い至す、内的な因子がみられており、病気体験を通して、自分の心の在り方を見つめ、適応しようとする内的な強靭さやしなやかさが重要な因子の一つとなる可能性を考えた。

本研究の対象者の選定基準として、就労していることや研究に協力できるだけの認知機能が維持されていることが挙げられているため、回答に影響を及ぼした可能性が本研究の limitation となると考えた。

・ 結語

AYA 世代のがんサバイバーは、様々な葛藤を抱えつつも、病気体験を乗り越えて、周囲の人とのつながりや内的な強靭性・しなやかさを支えに自分らしい生き方を模索していた。彼らへの支援として、サバイバーが健康問題への対処と仕事を両立できるような社会的制度の充実が有用と思われる。

表 1. 患者背景

性別	男性 12 例/女性 8 例	
調査時年齢	21 歳-29 歳(中央値 24.5 歳)	
罹患時 年齢	5-9 歳	1 例
	10-14 歳	1 例
	15-19 歳	9 例
	20 歳以上	9 例
癌腫	血液・リンパ系組織: 8 例 胚細胞腫瘍: 4 例 脳腫瘍: 3 例 骨軟部腫瘍: 3 例 その他: 2 例	
最終学歴	高校・専門学校卒業	3 例
	短大・大学卒業	14 例
	大学院卒業	1 例
	不明	2 例
がん診断時 就労状況	あり	8 例(正規雇用: 3 例、非正規雇用: 5 例)
	なし	12 例(うち 1 例は正規雇用内定あり)

・ 研究成果

- ① 第 68 回日本小児血液がん学会にて発表予定 (2026 年 4 月時点で演題登録中)
- ② 論文執筆中